

# 昭和34年9月型洪水における 氾濫箇所分析

(第4回勉強会資料)

平成14年12月25日

近畿地方整備局

# 目 次

1. 等雨量線図
2. 昭和34年9月ハイトハイトログラフ
3. 昭和34年9月洪水の流出量
4. 昭和34年9月洪水における治水上の課題
  - (1) 無堤箇所現状
  - (2) 河道断面不足箇所現状
  - (3) 狭窄部箇所現状
  - (4) 委員から提案のあった遊水地について

# 1. 等雨量線図(2日雨量) <昭和34年9月 伊勢湾台風>

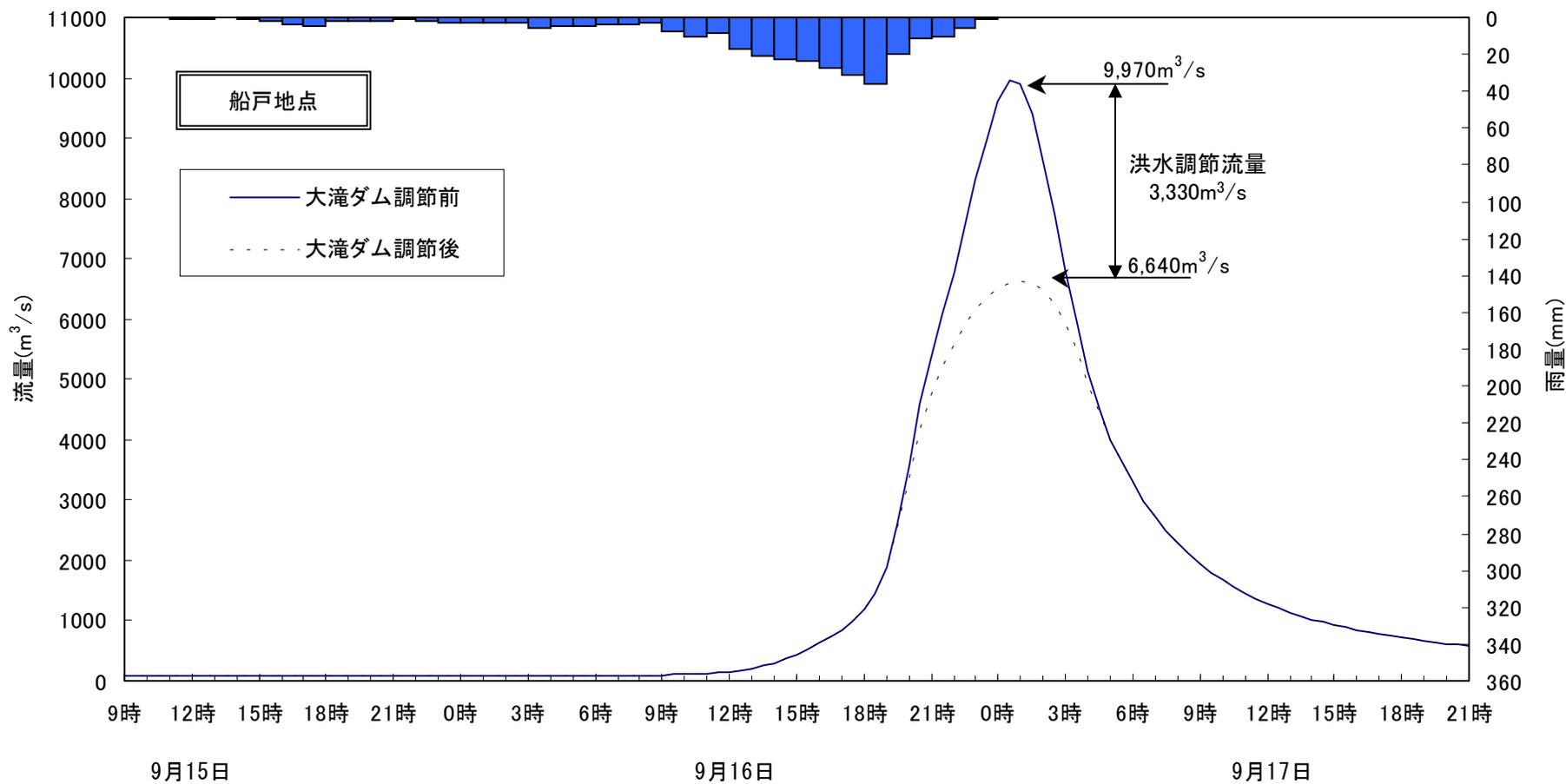
極めて上流多雨型の降雨であり、八幡平付近で1,200mmを超える雨量を記録。

上流に比べて中下流部での雨量は少なく、中流部の高野山で200mm程度、下流部の岩出では50mm程度でした。



# 2. 昭和34年9月ハイレトハイドログラフ

昭和34年9月実績降雨(船戸313mm/2日)



### 3. 昭和34年9月洪水の流出量

昭和34年9月洪水における流出量は、以下のとおりである。

大滝ダム	実績降雨 (mm)	大滝(m <sup>3</sup> /s)	五條(m <sup>3</sup> /s)	橋本(m <sup>3</sup> /s)	船戸(m <sup>3</sup> /s)
なし	313	6,220	8,210	9,230	9,970
2,500m <sup>3</sup> /s 一定放流	313	2,500	4,780	5,760	6,640